

信仰と良い行い

2023年7月23日

エペソ人への手紙 2章1～10節

序：(1)選び + 恵み + 信仰 = 救い 1・3～14
父 御子 御霊 ①神の栄光がほめたたえられるため
②聖霊の証印（御国を相続）＝信者のしるし

(2)「私たち」：ユダヤ人も異邦人も / 使徒たちもエペソの聖徒たちも

(3)教会のための祈り

(4)教会：キリストのからだ（かしらはキリスト、すべての権威・主権・権力付与）
今だけでなく、来たるべき世でも
教会の主（所有者）∴贖ったから

恵みばかりかすべてのものの与え主ご自身が満ちているところ

2・1～10 Before と After（あなたがた）

I. 救われる前（生まれながらの状態）

(1)死んでいた者
自分の背き＝神を神としない（心・思い）
罪＝実際の具体的悪（ことば・行動）

創造主から断絶（霊的死）⇒ 肉体の死 ⇒ 永遠の死

- ①神がわからない、存在を信じられない、
創造された者なのに創造者を知らない（親を知らない子ども）
- ②自分がわからない、人生の目的、意味、方向がわからない（迷子）
- ③神の創造された世界がわからない

(2)死んでいた者の生き方

- ①罪の中に続ける
- ②この世の流れに従う（死んだ魚は上流に上れない、流されるのみ）
- ③悪魔・悪霊に従う
 - ㊦ 空中の権威を持つ支配者（天には天使、地には人間、その間の空間）
 - ㊦ 不従順の子らの中に今も働いている霊
- ④私たちもみな＝一人の例外もなく、すべての人が
かつては不従順の子らの一人
- ⑤肉の欲を原動力とし、自分の自己中心の願望達成のために生活
- ⑥神の御怒り・さばきを必ず受ける
聖・義に基づき

このままでは、刑罰を免れず、滅びへと突き進むほかなかった、しかし

II. あわれみ豊かな神

(1)罪人を愛された大いなる愛のゆえに

(2)死んでいた私たちを生かして下さった
罪・咎 キリストとともに

(3)救いは神の恵みによる
人間の功績ではない

(4)キリストとともに
よみがえらせ
天上に座らせてくださった（すでに）

(5)神の絶大な慈愛と恵みが全世界のすべての時代、そして永遠にまで示すため

Ⅲ. 私たちの救い

(1)神の恵みによる（与える側の厚意、受ける資格がない者に対して）
＝賜物（プレゼント・お返しなし）
神がすべてのことを備え、成し遂げて、差し出してくださっている

(2)信仰による
信仰は差し出された賜物（救い）を受け取るために伸ばす手
その信仰さえも聖霊が信じられるよう導いてくださる
信じる人間から出たものではない

(3)行いによって救われるのではない
行いによるなら、自分の力、功績の結果だとして、誇るから
救いが神の賜物ではなく、自分の力で獲得したかのように栄光を自分に帰す

Ⅳ. 救われた後

(1)良い行いができるようになる
∴救い＝神の作品として、再創造され、新しいいのちが与えられる
救われる前は、主に受け入れられるよい行いではなく、自分や他人の考える
良い行いが基準となっている

∴神が良い行いを予め備えてくださった（具体的には5～6章参照）

(2)救われるための善い行いではなく、救われたから神に感謝の返礼をする
義務感 < 感謝のささげもの

Ⅴ. 結び

(1)生まれながら、私たちはみな神と断絶して罪の中に生き、その報いとして刑罰を受けることが定まっている（神の聖と義）

(2)神は罪人を救うご計画を持っておられキリストにより実現された（神の恵みと愛）

(3)神は救いを与えようと差し出しておられる

(4)受けた人は信仰という手を伸ばして受け取ることで、自分のものとして得る

(5)救いは善行によっては得られない ∴神のみこころ・方法ではない、人間発

(6)神の恵みと信仰によって救われた後、主に喜ばれる生き方や善い行ないをしたいという願いが与えられ、実行する（善行は救いの条件ではなく、救いの結果）
測り知れない圧倒的な主の恵みに感謝して応答する（信仰と力にに応じて）

(7)信仰者がなした業に対して、主は報いをそれぞれに与えてくださる（携挙後）
信仰によって義とされているから、善行は無用・不必要と考える者は思い違いをしないように（木は実によって知られる）